

## 第Ⅱ部 調査結果の概要



## 第1章 食・食育

### 1 食育への関心 (P185)

「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(37.9%)と「どちらかといえば関心がある」(35.1%)を合わせた《関心がある》は73.0%となった。

一方、「関心がない」(4.1%)と「どちらかといえば関心がない」(13.4%)を合わせた《関心がない》は17.5%であった。

### 2 朝食を同居の方と食べる頻度 (P187)

複数人でお住まいの1,094人に、朝食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日食べる」が47.8%で最も多く、次いで「ほとんど食べない」が20.9%であった。

### 3 夕食を同居の方と食べる頻度 (P189)

複数人でお住まいの1,094人に、夕食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日食べる」が57.5%で最も多く、次いで「週に2～3日食べる」が15.4%であった。

### 4 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度 (P191)

一人暮らしの146人に、昼食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が34.2%で最も多く、次いで「週に2～3日食べる」が19.9%であった。

### 5 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度 (P193)

一人暮らしの146人に、夕食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が52.1%で最も多く、次いで「週に1日程度食べる」が17.8%であった。

### 6 歯と口の健康を保つために気をつけていること (P195)

歯と口の健康を保つために気をつけていることを複数回答で尋ねたところ、「歯みがきをしている」が91.5%で最も多く、「かかりつけ歯科医を決めている」(50.3%)と「糸つきようじや歯間ブラシを使っている」(46.8%)が続いた。

### 7 食事のマナーを正しくできていることへの意識 (P197)

食事のマナー(いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など)を正しくできていると思うか尋ねたところ、「十分できていると思う」(19.7%)と「ある程度できていると思う」(55.8%)を合わせた《できていると思う》は75.5%となった。

一方、「まったくできていないと思う」(2.2%)と「あまりできていないと思う」(15.2%)を合わせた《できていないと思う》は17.4%であった。

## 第2章 食の安全・安心

### 1 食品を購入する際に確認している表示内容 (P199)

食品を購入する際に、確認している表示内容を複数回答で尋ねたところ、「期限表示（消費期限や賞味期限など）」が89.0%で最も多く、次いで「原産地や原産国」が71.1%と多かった。

### 2 食中毒を予防する上で重要なこと (P201)

食中毒を予防する上で重要なことについて、知っていることを複数回答で尋ねたところ、「食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する」が89.2%で最も多く、次いで「調理や食事前によく手を洗う」が79.8%と多かった。

### 3 食品を安全に食べるために必要な知識 (P203)

食品を安全に食べるために、必要な知識（例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど）を持っていると思うか尋ねたところ、「ある程度持っていると思う」が53.4%で最も多く、次いで「十分持っていると思う」が23.6%であった。

## 第3章 スポーツ

### 1 1年間のスポーツ実施日数 (P205)

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「週に3日程度（年151日～250日）」が15.4%で最も多く、次いで「月に1～3日程度（年に12日～50日）」が14.0%であった。

### 2 「かながわパラスポーツ」の認知度 (P207)

「かながわパラスポーツ」を知っているか尋ねたところ、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」が76.6%で最も多かった。

### 3 ラグビーワールドカップが横浜市で開催されることの認知度 (P209)

2019年にラグビーワールドカップが横浜市で開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が44.6%であった。

一方、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は51.3%となった。

### 4 横浜市で開催されるラグビーワールドカップの観戦意向 (P211)

横浜市で開催されるラグビーワールドカップを直接会場で観戦したいか尋ねたところ、「会場ではなく、テレビ等で観戦したい」が32.2%で最も多く、次いで「観戦したくない」が25.7%であった。

## 第4章 東京2020大会の機運醸成に向けた取組

### 1 セーリング競技への興味・関心 (P213)

神奈川県江の島で開催されるセーリング競技に興味・関心があるか尋ねたところ、「セーリング競技に興味・関心があり、定期的にセーリング競技を行っている」(0.3%)、「セーリング競技に興味・関心があり、セーリングを体験したことがある」(1.7%)、「どちらかといえば興味・関心がある」(29.1%)を合わせた《関心がある》は31.1%であった。

一方、「どちらかといえば興味・関心はない」(43.5%)と「興味・関心はない」(24.1%)を合わせた《関心がない》は67.6%となった。

### 2 セーリング競技の観戦意向 (P215)

東京2020大会のセーリング競技を観戦したいと思うか尋ねたところ、「テレビ等、自宅で観戦したい」が45.4%で最も多かった。

一方、「観戦するつもりはない」は41.0%であった。

### 3 東京2020大会やセーリング競技に関するイベントへの参加意向 (P217)

東京2020大会やセーリング競技に関するイベントで、どのようなイベントであれば参加したいと思うか複数回答で尋ねたところ、「歌手などの芸能人による音楽ライブ・トークイベント」が28.6%で最も多く、次いで「東京2020大会など、セーリング競技の国際大会への観戦招待」が24.6%であった。

### 4 東京2020大会に参加する海外選手との交流事業・イベントへの参加意向 (P219)

2020年には、東京2020大会に参加する海外選手が神奈川県内で事前キャンプを実施する予定であり、選手等との交流事業・イベントも併せて実施する予定だが、どのような交流事業・イベントであれば参加したいと思うか複数回答で尋ねたところ、「公開練習の見学」が40.9%で最も多く、次いで「競技観戦ツアー」が27.9%であった。

## 第5章 とともに生きる社会かながわ

### 1 とともに生きる社会かながわ憲章の認知度 (P221)

とともに生きる社会かながわ憲章を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が81.0%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が12.0%であった。

### 2 とともに生きる社会かながわ推進週間の認知度 (P223)

とともに生きる社会かながわ推進週間を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」は、87.3%となった。

一方、「知っている」は、2.2%であった。

### 3 ともに生きる社会かながわ推進週間を知った広報の方法 (P225)

ともに生きる社会かながわ推進週間の認知度(問18)で、ともに生きる社会かながわ推進週間を「知っている」と回答した28人に何で知ったかを複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙」が82.1%で最も多く、次いで「新聞広告」が28.6%であった。

### 4 身近で障がい者と接する機会 (P227)

身近で障がい者と接する機会の有無について尋ねたところ、「ある」(35.4%)と「あまりない」(34.8%)がともに3割台であった。

### 5 障がい者への差別・偏見の有無 (P229)

障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うか尋ねたところ、「あると思う」(20.7%)と「少しはあると思う」(27.7%)を合わせた《あると思う》は48.4%であった。一方、「ないと思う」(21.4%)と「あまりないと思う」(21.5%)を合わせた《ないと思う》は43.0%であった。

### 6 障がい者に配慮した行動をとる人 (P231)

5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思うか尋ねたところ、「かなり増えたと思う」(9.0%)と「ある程度増えたと思う」(37.1%)を合わせた《増えたと思う》は46.1%であった。

一方、「まったく増えていないと思う」(5.0%)と「あまり増えていないと思う」(18.2%)を合わせた《増えていないと思う》は23.3%であった。

### 7 希望する手話の学習方法 (P233)

手話を学ぶ場合、どのような方法で学びたいか尋ねたところ、「手話講習会」が33.9%で最も多く、次いで「手話サークル」が10.1%であった。また、「学びたいと思わない」は12.3%であった。

## 第6章 子ども・子育て支援

### 1 安心して子どもを産み育てられる環境の整備(重要度) (P235)

安心して子どもを産み育てられる環境の整備に関して11項目を提示し、それぞれどれくらい重要だと思うか尋ねたところ、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせた《重要である》では、「妊娠から出産後までの医療が充実していること」が83.0%で最も多く、「出産・育児について相談できる人や場が身近な地域にあること」(78.9%)と「保育所や放課後児童クラブなど、子どもを預かるサービスが充実していること」(78.8%)が約8割で続いた。

一方、「まったく重要でない」と「さほど重要でない」を合わせた《重要でない》では、すべての項目(0.6%~2.2%)で1割に満たなかった。

## 2 安心して子どもを産み育てられる環境の整備(満足度) (P243)

安心して子どもを産み育てられる環境の整備に関して11項目を提示し、それぞれどの程度満たされていると思うか尋ねたところ、「十分満たされている」と「かなり満たされている」を合わせた《満たされている》では、「妊娠から出産後までの医療が充実していること」が25.6%で最も多く、「出産・育児について相談できる人や場が身近な地域にあること」(15.9%)と「住宅や公園など、子育てに配慮した環境が整っていること」(15.8%)が続いた。

一方、「ほとんど満たされていない」と「あまり満たされていない」を合わせた《満たされていない》では、「男女ともに育児休業などを取りやすい職場環境が整っていること」が40.0%で最も多く、「教育費など、子育てに関する経済的負担が少ないこと」(34.6%)と「社会全体で子育てを応援する必要性への理解が深まっていること」(30.4%)が続いた。

## 第7章 教育

### 1 最近の子どもについて (P251)

最近の子どもについて、10項目を提示して、それぞれどのような印象を持っているか尋ねたところ、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた《そう思う》では、「明るく元気である」が47.0%で最も多く、「個性豊かである」(35.8%)と「やさしさや思いやりがある」(33.3%)が3割台で続いた。

一方、「そう思わない」と「どちらかというと思わない」を合わせた《そう思わない》では、「ねばり強さがある」が48.4%で最も多く、次いで「体力がある」が48.2%であった。

### 2 教育に関する取組の満足度 (P258)

かながわの教育に関する取組について、8項目を提示して、現在、どの程度満たされていると思うか尋ねたところ、「十分満たされている」と「かなり満たされている」を合わせた《満たされている》では、「コミュニティ・スクールなど、学校を核とした地域ぐるみでの教育が行われていること」が13.2%で最も多く、「かながわの魅力を生かした文化芸術・スポーツの振興が行われていること」(13.0%)と「地域・学校など社会全体で、子育て・家庭教育の支援が行われていること」(12.5%)が続いた。

一方、「ほとんど満たされていない」と「あまり満たされていない」を合わせた《満たされていない》では、「社会全体で『思いやる力』、『たくましく生きる力』、『社会とかがわる力』の3つの力を身に付けるための支援が行われていること」が25.4%で最も多く、次いで「指導力の高い教職員などによる魅力あふれた学校づくりが行われていること」が24.0%であった。

### 3 子どもたちが身に付けるべき力 (P264)

子どもたちが身に付けるべき力として、必要だと思う内容を複数回答で尋ねたところ、「他者への思いやりなど人間関係を築く力」が85.4%で最も多く、次いで「確かな学力(基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体的に学ぶ態度)」が71.8%と多かった。

#### 4 教育や学習の環境整備として必要だと思うもの (P266)

教育や学習の環境整備として、必要だと思う内容を複数回答で尋ねたところ、「家庭の経済状況等に左右されない学習環境の整備」が68.6%で最も多く、「教員が授業や生徒指導などの教育業務に集中できる学校の指導体制の整備」(50.2%)と「耐震化・老朽化対策など、安全・安心で質の高い学校施設の整備」(46.3%)が続いた。

### 第8章 「未病改善」の取組

#### 1 「未病 (ME-BYO)」の認知度 (P268)

「未病 (ME-BYO)」という言葉を知ったことがあるか尋ねたところ、「聞いたことがある」は52.3%となった。

一方、「聞いたことがない (今回の調査で初めて聞いた)」は42.6%であった。

#### 2 「未病 (ME-BYO)」の意味の認知度 (P270)

「未病 (ME-BYO)」の認知度 (問28) で、「聞いたことがある」と回答した654人に、「未病 (ME-BYO)」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「言葉の意味を知っている」は63.5%となった。

一方、「言葉の意味は知らなかった (今回の調査で初めて知った)」は34.6%であった。

#### 3 「未病改善」の取組の実践 (P272)

過去の1年間で「未病改善」の取組 (バランスの良い食事、運動、人との交流等) を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「もともと行っており、今も行っている」が30.2%で最も多く、次いで「以前から行っておらず、今も行っていない」が27.7%であった。

#### 4 「未病改善」の取組に必要なと思うもの (P274)

「未病改善」の取組 (バランスの良い食事、運動、人との交流等) をするにあたって必要だと思うものを複数回答 (3つまで) で尋ねたところ、「医師等、専門家からの専門的知見に基づく現在の健康状態に関するアドバイス」が37.9%で最も多く、「家族、友人等、一緒に健康に良い行動ができる仲間」(37.4%)、「スポーツセンター等、気軽に運動ができる施設」(37.2%)、「健康に良い食材や調理方法等、食に関する情報」(36.6%)がそれぞれ3割台が続いた。

### 第9章 ヘルスケアICTの取組

#### 1 健康情報が記録・管理できるアプリケーションの利用について (P276)

パソコンやスマートフォンで、自分自身の健康情報が記録・管理できるアプリケーションを利用してみたいと思うか尋ねたところ、「利用してみたいと思う」が45.3%で最も多かった。



## 2 見える化・データ化してほしい健康情報 (P278)

自分の健康情報が「見える化」・「データ化」できるとしたら、どのような項目がよいと思うか複数回答で尋ねたところ、「体重・体脂肪率」が53.0%で最も多く、「睡眠の質」(50.6%)と「疲労度」(49.5%)が続いた。

## 3 健康の維持・改善に向けたサービス (P280)

どのようなサービスがあれば、自分の健康の維持・改善に向けた行動ができると思うか複数回答で尋ねたところ、「心身の状態に合わせて適切なアドバイスをしてくれるサービス」が54.2%で最も多く、次いで「身体の状態が分かる指標が示され、行動によってその指標が変化するサービス」が44.6%であった。

# 第10章 肝炎対策

## 1 ウイルス性肝炎の認知度 (P282)

ウイルス性肝炎という病気を知っているか尋ねたところ、「言葉は聞いたことがある」が46.8%で最も多く、次いで「どのような病気か知っている」が41.8%であった。一方、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」は8.4%であった。

## 2 「肝炎ウイルス検査」の受診状況 (P284)

これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「受けたことがある」は25.0%であった。

一方、「受けたことがない」は61.4%となった。

## 3 「肝炎ウイルス検査」を受診しない理由 (P286)

「肝炎ウイルス検査」の受診状況(問35)で肝炎ウイルス検査を「受けたことがない」と回答した767人に、その主な理由を複数回答(3つまで)で尋ねたところ、「健康なので必要ないから」が32.2%で最も多く、次いで「日程や場所がわからなかったから」が25.0%であった。また、「特に理由はない」は36.6%であった。

# 第11章 アルコール依存症に対する意識

## 1 適度な飲酒量 (P288)

適度な飲酒量を知っているか尋ねたところ、「知っている」は58.4%となった。

一方、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」は35.7%であった。

## 2 アルコールについて知っているもの (P290)

アルコールについて知っているものを尋ねたところ、「妊娠中の飲酒は、胎児に発達の遅れをきたすことがある」(77.3%)と「継続的な多量飲酒は、肝臓だけでなく、脳・心臓・血管・骨など全ての臓器に悪影響を及ぼす」(75.5%)がともに7割台が多かった。

## 3 アルコール依存症について知っているもの (P292)

アルコール依存症について知っているものを複数回答で尋ねたところ、「アルコール依存症は、飲酒をコントロールすることができない精神疾患である」が87.3%で最も多く、次いで「飲酒をしていれば、誰もがアルコール依存症になる可能性がある」が47.0%であった。

## 4 アルコール依存症に関する相談場所として知っているもの (P294)

アルコール依存症について、相談できる場所として知っているものを複数回答で尋ねたところ、「医療機関(病院や診療所など)」が76.2%で最も多かった。また、「わからない」は、14.9%であった。

## 5 アルコール依存症についての相談希望 (P296)

アルコール依存症について相談場所を知っていれば相談するか、またはすでに相談したことがあるか尋ねたところ、「する」は、44.6%であった。

一方、「しない」は、45.6%であった。

# 第12章 生物多様性

## 1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度 (P298)

「生物多様性」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「言葉の意味を知っている」(22.2%)と「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」(26.3%)がともに2割台であった。

## 2 神奈川県における生物多様性の保全の取組で重要なもの (P300)

神奈川県における生物多様性の保全について、どの取組が重要だと思うかを複数回答(3つまで)で尋ねたところ、「山地や里山、都市や河川・海などの自然環境を保全する取組」が73.9%で最も多く、次いで「外来生物を防除する取組」が56.2%となった。

## 3 生物多様性を知る、または行動する機会として、参加したいと思う取組 (P302)

生物多様性を知る、または行動する機会として、どの取組に参加したいと思うかを複数回答で尋ねたところ、「自然や生きものとふれあう自然観察会」が38.9%で最も多く、次いで「緑地や里地里山など自然環境を保全・再生する活動」が32.2%であった。

## 第13章 神奈川県 of 農林水産業

### 1 「地産地消」 of 取組 of 重要度 (P304)

県内 of 農林水産業を活性化する上で、「地産地消」 of 取組を重要だと思ふか尋ねたところ、「重要だと思ふ」(51.8%) と「どちらかといへば重要だと思ふ」(31.9%) を合わせた《重要だと思ふ》は83.8%となった。

一方、「重要だと思わない」(1.8%) と「どちらかといへば重要だと思わない」(1.0%) を合わせた《重要だと思わない》は2.8%であった。

### 2 「かながわブランド」 of 認知度 (P306)

「かながわブランド」という言葉を知っているか尋ねたところ、「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らなかった」が43.8%で最も多く、次いで「言葉も内容も知っている」が28.2%であった。

### 3 神奈川県 of 農業に期待する役割 (P308)

神奈川県 of 農業にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料 of 供給」が47.1%で最も多く、次いで「食料 of 安定供給」が15.2%であった。

## 第14章 環境に配慮した生活

### 1 再生可能エネルギーを利用した電力 of 購入希望 (P310)

多少値段が高くても再生可能エネルギーを利用した電力を購入したいと思ふか尋ねたところ、「どちらともいえない」が49.4%で最も多く、「購入したいと思ふ」(26.0%) と「購入したいと思わない」(20.7%) が続いた。

### 2 環境問題 of 情報収集 of 有無 (P312)

興味のある環境問題について情報を収集しているか尋ねたところ、「収集している」が14.2%であった。

一方、「収集していない」が50.6%となり、「収集していない」が「収集している」を36.4ポイント大きく上回った。

### 3 企業等が持つ技術力 of 環境問題解決への貢献 (P314)

企業等 of 持つ技術力が、地球温暖化などの環境問題 of 解決に生かされていると思ふか尋ねたところ、「生かされていると思ふ」が30.0%であった。

一方、「生かされていると思わない」が21.2%であった。

## 第15章 住宅の省エネルギー化

### 1 省エネルギー性能の高い住宅のメリットについて知っていること (P316)

省エネルギー性能の高い住宅のメリットについて、知っていることを複数回答で尋ねたところ、「冷暖房の効率が良くなり光熱費を節約できる」が76.1%で最も多く、「夏は涼しく、冬は暖かく快適に過ごせる」(55.4%)と「地球環境にやさしい住宅になる」(51.8%)が続いた。

### 2 「省エネリフォーム」への関心 (P318)

住宅の「省エネリフォーム」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(31.4%)と「どちらかといえば関心がある」(34.9%)を合わせた《関心がある》は66.3%となった。

一方、「関心がない」(7.4%)と「どちらかといえば関心がない」(12.2%)を合わせた《関心がない》は19.7%であった。

### 3 省エネリフォームを行う場合に期待する効果 (P320)

「省エネリフォーム」への関心(問51)で、《関心がある》と回答した829人に、省エネリフォームを行う場合、どのような効果を期待するか尋ねたところ、「冷暖房の効率が良くなり光熱費を節約できる」が33.7%で最も多く、次いで「夏は涼しく、冬は暖かく快適に過ごせる」が24.5%であった。

### 4 省エネリフォームに関心を持たない理由 (P322)

住宅の「省エネリフォーム」への関心(問51)で、《関心がない》と回答した246人に、省エネリフォームに関心を持つのが難しいと思うのはなぜか複数回答(3つまで)で尋ねたところ、「リフォーム費用が高額」が41.1%で最も多く、次いで「現在の住宅に不満がない」が37.4%であった。

### 5 省エネ住宅を普及させるために期待する県からの支援 (P324)

省エネルギー性能の高い住宅を普及させるため、県にどのような支援を期待するか複数回答で尋ねたところ、「補助金や減税制度の充実」が83.6%で最も多く、次いで「省エネルギー性能の高い住宅に関するコストやメリットなどの情報発信」が43.0%であった。

## 第16章 将来の住まい

### 1 将来の住まいに対する不安 (P326)

将来高齢者になったとき現在の住まいに不安があるか(高齢者の方は現在の状況)を尋ねたところ、「不安がある」が57.4%となった。

一方、「不安がない」は24.0%であった。

## 2 将来の住まいに不安を抱く理由 (P328)

将来の住まいに対する不安(問53)で、「不安がある」と回答した718人に、不安だと思う理由を複数回答で尋ねたところ、「リフォームや建替え、住替えをすればした場合、費用が用意できるか不安」が62.5%で最も多かった。

## 3 シェアハウスに対する考え (P330)

将来高齢単身者となった場合に、台所・トイレ・浴室などを共有し、幅広い世代の人々(高齢者、シングルマザー、若年・中高年単身者など)が互いに支え合いながら生活するシェアハウスに住んでみたいと思うか尋ねたところ、「住んでみたい(あるいは現在住んでいる)」は18.2%であった。

一方、「住みたくない」は、54.8%となった。

## 4 シェアハウスに住んでみたい理由 (P332)

シェアハウスに対する考え(問54)で、「住んでみたい(あるいは現在住んでいる)」と回答した227人に、住んでみたい(あるいは現在住んでいる)理由を複数回答で尋ねたところ、「一人暮らしよりも安心である」が80.2%で最も多く、次いで「他の入居者とコミュニケーションがとれる」が55.5%となった。

## 5 シェアハウスに住みたくない理由 (P334)

シェアハウスに対する考え(問54)で、「住みたくない」と回答した685人に、住みたくない理由を複数回答で尋ねたところ、「プライバシーを保てない」が61.9%で最も多く、「現在の住まいに愛着がある(満足している)」(45.0%)と「共同生活や人付き合いが苦手である」(44.5%)が4割台で続いた。

# 第17章 人権問題

## 1 今の日本社会に対する意識 (P336)

今の日本を基本的人権が尊重されている社会だと思うか尋ねたところ、「そう思う」が28.2%であった。

一方、「そう思わない」は25.0%であった。また、「どちらともいえない」は42.7%であった。

## 2 インターネットでの人権侵害を防ぐための取組 (P338)

インターネットでの人権侵害を防ぐために、特に力を入れて取り組む必要があると思うことについて複数回答(3つまで)で尋ねたところ、「違法な情報発信に対する監視や取締りを強化する」が65.8%で最も多く、次いで「プロバイダ(インターネット接続業者)などに人権を侵害する情報の削除を求める」が51.1%となった。

### 3 県内の同和地区や同和地区出身者に対する差別への意識 (P340)

神奈川県内での、同和地区出身者に対する差別についてどう思うか尋ねたところ、「実際に見聞きしたことはないが、今でもあると思う」が30.8%で最も多く、「実際に見聞きしたこともないし、今ではないと思う」(17.5%)と「実際に見聞きしたことがあるし、今でもあると思う」(12.7%)が1割台で続いた。

### 4 自分の子どもと同和地区出身者の結婚への意識 (P342)

仮に、お子さんがいるとして、そのお子さんの結婚する相手が同和地区出身者であるとわかったら、どうするか尋ねたところ、「子どもの意思を尊重して結婚を認める」が39.3%で最も多く、「結婚相手の出自(家柄)にはこだわらない」(25.4%)と「家族や親戚の反対があれば、結婚を認めない」(22.2%)が2割台で続いた。

## 第18章 消防団の認知度

### 1 消防団の認知度 (P344)

地域の安全・安心を守る消防団を知っているか尋ねたところ、「知っている」が68.4%となった。

一方、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」は10.4%であった。

### 2 消防団への入団意向 (P346)

地域の安全・安心を守るため、消防団に入団したいと思うか尋ねたところ、「入団したくない(活動する時間がないから)」が26.4%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が25.0%であった。

### 3 消防団の活動や消防団員の待遇で魅力を感じる事 (P348)

消防団の活動や消防団員の待遇で魅力を感じることを複数回答で尋ねたところ、「地域社会に貢献できる」が52.2%で最も多く、「応急手当の知識や救助技術が身につく」(37.1%)と「自分の住む地域又は働く地域との結びつきを強められる」(33.1%)が3割台で続いた。

## 第19章 自転車損害賠償保険への加入

### 1 自転車の利用状況 (P350)

通勤や通学、その他日常生活で自転車を利用しているか尋ねたところ、「利用している」が30.7%であった。

一方、「利用していない」は、65.0%となった。

## 2 自転車損害賠償保険への加入の有無 (P352)

自転車の利用状況（問 62）で、「利用している」と回答した 384 人に、自転車利用中に事故を起こした際に、相手方の損害を賠償することができる保険（自転車損害賠償保険）に加入しているか尋ねたところ、「加入している」が 51.8%となった。

一方、「加入していない」は、40.4%であった。

## 3 自転車損害賠償保険に加入することについての考え (P354)

すべての自転車利用者が自転車損害賠償保険に加入することについてどう思うか尋ねたところ、「加入すべきである」は、78.8%と多かった。

一方、「その必要はない」は、4.4%であった。

# 第20章 地震対策の取組

## 1 大きな地震に備えた対策 (P356)

神奈川県では、首都直下地震や南海トラフ地震、神奈川県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題になっていることを説明した上で、大きな地震に備えて、どのような対策をとっているか複数回答で尋ねたところ、「食料や飲料水を備蓄している」が56.5%で最も多く、次いで「非常持ち出し品を準備している」が45.8%であった。

## 2 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動 (P358)

海岸や海岸近くで、地震による強い揺れや長い時間の揺れを感じたらどう行動するか尋ねたところ、「すぐに海岸から避難する（地震後、5分以内で避難を開始）」が 84.8%で最も多かった。

## 3 津波に関する知識 (P360)

津波に関する 9 項目を提示して、それぞれ知っていたかどうか尋ねたところ、「知っていた」では、「津波から避難するときは、『遠いところ』ではなく『高いところ』に逃げる必要がある」（91.0%）と「津波は、早ければ地震発生後数分で到達する」（88.3%）がともに約 9 割で多かった。

一方、「知らなかった」では、「津波警報・注意報等が発表されると、避難を呼びかけるために、海岸にオレンジ色の旗（『オレンジフラッグ』といいます）が出されることがある」が 82.6%で最も多かった。

# 第21章 治安対策

## 1 不安を感じる犯罪 (P367)

身近で発生する可能性がある犯罪のうち、不安を感じるものを複数回答で尋ねたところ、「空き巣」が 65.3%で最も多く、次いで「ひったくり」が 53.0%となった。

## 2 身近な治安に関して最も安心感を抱くとき (P369)

身近な治安に関して、最も安心感を抱くときはどのようなときか尋ねたところ、「制服警察官がパトロールしているとき」が31.0%で最も多く、次いで「身近な事件、事故が解決したとき」が24.2%であった。

## 3 安心して暮らすために最も重要だと思うもの (P371)

犯罪や交通事故がなく、より安心して暮らすために最も重要だと思うものを尋ねたところ、「防犯カメラ等の防犯設備の整備」が24.4%で最も多く、次いで「地域住民同士のつながり」が20.8%であった。

## 4 犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法 (P373)

地域の犯罪発生情報や防犯に役立つ情報について、情報を得やすい方法を複数回答で尋ねたところ、「テレビ」が71.9%で最も多く、「インターネット（警察のホームページ、Twitter、スマートフォンアプリ「Yahoo! 防災速報」、神奈川県警公式YouTube 防犯チャンネル等）」(34.3%)、「新聞」(30.1%)、「回覧板」(30.1%)がそれぞれ3割を超えて続いた。